

新建 ちば

2022/7
No.284

新建築家技術者集団 千葉支部機関紙



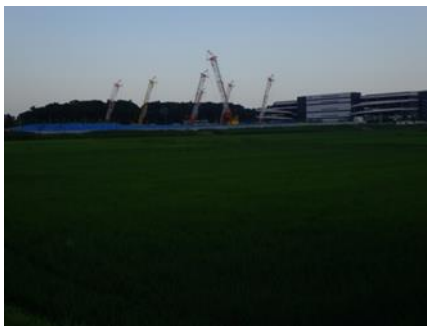
巨大な物流センター・流山市 県道5号線沿い



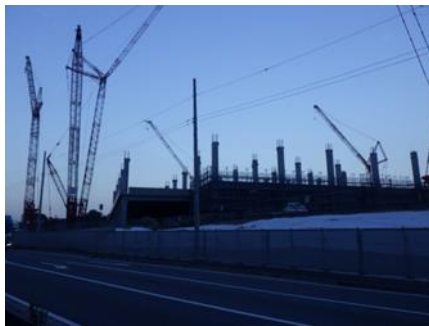
土手の上より見ると江戸川水位がかなり高い



水田の向こうは物流センター工事中



すでに完成している棟もある



近くから見るとクレーン塔の迫力凄い

仕事で野田市に通っているが、外環三郷インターから常磐道に入り、最初の流山インターを出ると、いきなり巨大な物流センターが目に入ってくる。元々この辺りは江戸川べりの広大な水田地帯で、江戸川の水位より低い、所謂ゼロメートル地帯。県道松戸野田線が江戸川に沿って水田の中央をまっすぐ突っ切っている。その県道の江戸川側は相変わらず見事な水田が広がっているが、市街地側は物流センターが連なる。すでに出来上がっている棟もあるが、巨大なクレーンが無数とっていいほど稼働中だ。そのスケールに圧倒される。高度経済成長時代やバブル期ならともかく、今の時代にこれほどの建設事業が、社会的要求としてあるのだろうかなどと思ってしまう。せめて今ある水田と農家集落が残ってほしいと思うのは無理な話か。

(文、写真：加瀬澤文芳)

ちば

2022年7月号
No.284



*** 目次 ***

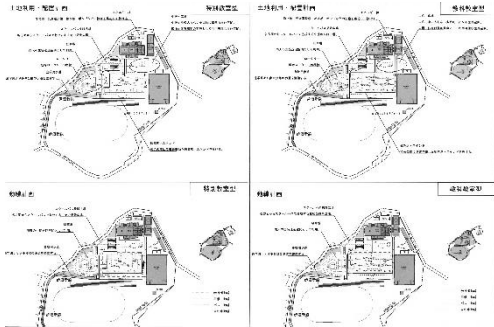
- ・目次・企画予定表 2
- ・地域における設計活動・富津市にてー2 3
宇野 武夫
- ・書評「これからの住まいー川崎直宏」 6
泉 ヒロヨシ
- ・世界まち歩き30・カサブランカ～ティトアン1 7
高山 登
- ・住宅改善紹介 10
加瀬澤 文芳
- ・事務局だより 12

企画予定表

月	支部企画 住まいづくり研究会	その他企画	全国・近県支部 その他企画	その他 支部幹事会
7月	15(金)ちば塾29・住宅改修紹介			14(木)20:00～ Web 支部幹事会＋交流会
8月				11(木)20:00～ 支部幹事会＋交流会
9月			11(日)～12(月)建築 とまちづくりセミ ナーin茨城	8(木)20:00～ 支部幹事会＋交流会
10月				13(木)20:00～ 支部幹事会＋交流会
11月				10(木)20:00～ 支部幹事会＋交流会
12月	支部総会・忘年会			
1月	新年会			12(木)18:30～ 支部幹事会＋交流会
2月				8(木)18:30～ 支部幹事会＋交流会
3月				9(木)18:30～ 支部幹事会＋交流会
4月				13(木)18:30～ 支部幹事会＋交流会
5月				11(木)18:30～ 支部幹事会＋交流会
6月				8(木)18:30～ 支部幹事会＋交流会

地域における設計活動・富津市にて・2
宇野武夫

天羽中学校の設計は、富津市との契約で校舎改築工事検討委員会へのオブザーバー参加業務が指示されていた。半年間夕刻冷房の切れた市役所の会議室で、地域住民代表を交えた公開の検討委員会に参加した。ここでの会議は傍聴人席もあり、録音された議事録がインターネットで公開される会議である。市は、以前から検討準備した従来型特別教室型の1棟案と2棟案を提示したが、委員からは熱心な意見が多く教育の基本的なところから検討したいと、教科教室型のプランが求められ、それに対応した配置計画や平面計画等の案を作成提案した。全国的に教科教室型の教育を行っている学校の実例調査や校舎の配置計画、教育の効果、コス



特別教室型と教科教室型の配置計画比較表

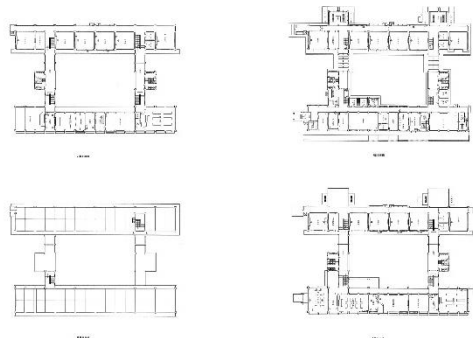
ト等総合的に判断し特別教室型の現在のプランに落ち着いた。その間、学校建築の視察やスライド等の資料による勉強会、大学の先生による議員さんたちに対する講演会などがあり、期間を延長して終了した。この会議を通じて、50年程前に鈴

木進さん達と始めた発注者、設計者だけでなく使う人、つくる人等を交えた建築づくりを求めて活動を始めた新建ちばの活動を思い出し、改めて住民参加の重要性を再認識した会議でした。

既存の天羽中学校は、昭和45年に



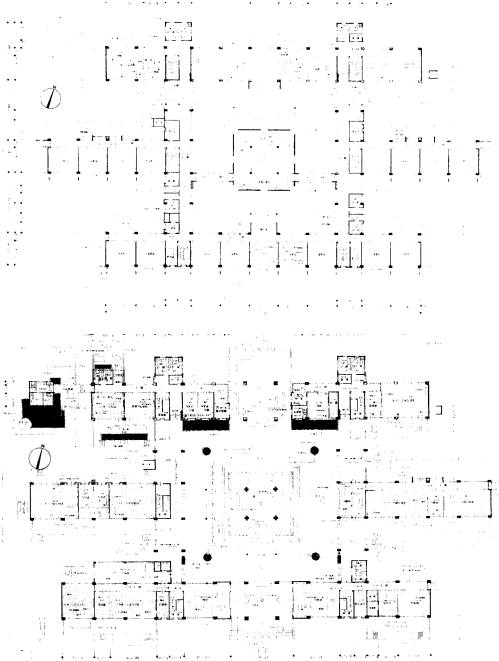
既存天羽中学校外観



既存天羽中学校 各階平面図

榎本建築設計事務所明智克夫氏の設計で故吉田俊夫氏が設計担当者でした。設計チームの協力者として私の書いた手書きのA1トレペが3枚程原図の中にあり懐かしく拝見した。外観、平面は上図の通りです。当時の教育熱心な合併前の天羽町の一大事業であったと思う。

この時期私は同じ榎本設計で東金中学校の指名コンペに当選し担当者として設計チームの仲間達と実施設計をしていた。

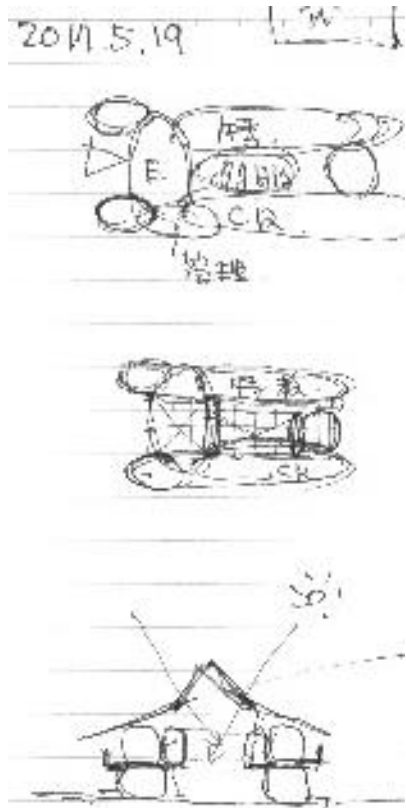


上から東金中学校2階平面図、1階平面図、北西外観

東金中学校は、生徒数1500人、36クラス、延べ12000㎡のマンモス中学校です。当時、人口減の過疎化地域で3校を1校に統合し、教育の格差是正、機会均等、市民の一体感等を期待して計画された。集中と分散と出会い交流を提案し、上図のような1階に中庭と池、上部2階に図書館を配置。校舎を四方に分散配置した計画です。(資料：新建築 1975, 6月号・朝日新聞

1973, 11, 1-15 統合マンモス校)

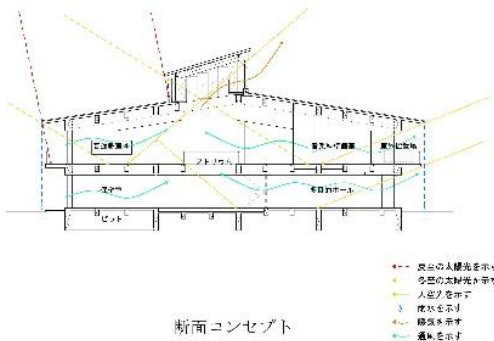
今回計画の新天羽中学校は、天羽東中学校と天羽中学校の統合で生徒数250人、6クラス、特別支援クラス2の約3000㎡のコンパクトな学校です。生徒数は年々減少傾向にあり、学校としての将来的な計画は不明ですが、長い建築の寿命の中で学校の役割が終えても地域で再利用可能な建築として計画している。子供の少



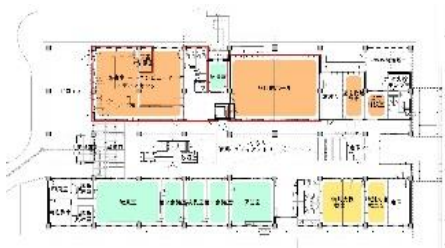
計画当初のスケッチ

ない各地域から登校した生徒たちが、出会い交流のできる開放的な2層吹抜けのアトリウムを計画し、上部に採光、換気窓を設け学校の中心的なスペースをつくり生徒、職員の一体的な刺激、情報のある

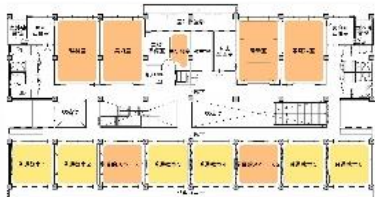
空間としている。



断面コンセプト



1階平面図



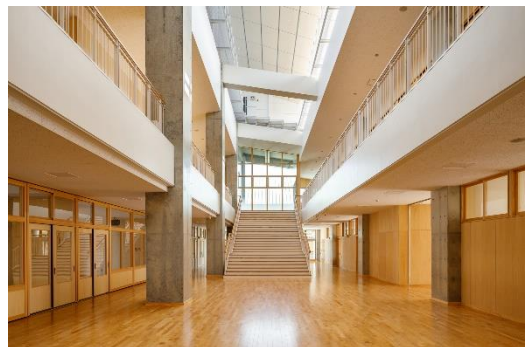
2階平面図

1階に設けた図書室は市民に開放できる別入口と、視覚的に連続し機能的に分離した情報スペースと共に社会開放可能な空間として積極的な利用を期待している。完成間際にコロナ騒ぎと台風等の自然災害があり、竣工のお披露目が出来ず残念でした。2階の廊下からは、東京湾、天気の良い日には富士山が見える。(スクールアメニィ 2020・10、建築ジャーナル 2021・10 参照) 尚、東金中学校はその後適正規模の3校

に分かれ旧校舎は役目を終えて解体された。新天羽中学校も将来学校の役割を終える時が来た場合に別用途として利用可能な計画としている。



天羽中学校南側外観



天羽中学校 昇降口よりの内観



雨宿りのできるピロティより昇降口に向かう。

事務所設立以来、公立の学校建築には同種の実績がない為縁がなく、病院長が委託できる民間病院建築が多かった。

天羽中学校は東金中学校以来の本格的な学校建築の設計で30年ぶりに、地域の教育について考える機会を持ちました。

書評：「これからの住まい」－ハウジング・スモールネスの時代

著者：川崎 直宏(市浦ハウジング&プランニング代表取締役社長)

出版社：岩波書店(岩波新書) 発行：2022年4月20日

評者 新建千葉支部会員 泉 ヒロヨシ

「衣食住」は暮らしていく上での、3大要素であり、どれが欠けても満足な生活は送れない。特に「住」は暮らしの拠点であり、腰を据えた「場」が定らなければ、落ち着いた生活は送れない。戦後の日本は420万戸の住宅不足からスタートしたが、当面は建設戸数目標を掲げて、その充足を目指した。そして、その目標が達成されると、住宅の質にこだわり、性能向上を目指したりしたが、国の政治課題としての位置づけは、「住宅問題」は次第にそのウェイトを落としていき、民間活用へ、地方公共団体へと軸足を移していった。

著者の所属する組織は、住宅や都市計画などの政策立案をバック・アップするコンサルタントであり、その折々の政策立案の目的や課題にも、いろいろな立場から関与した関係もあったかと推察されるが、本書では、1990年代以降の、公的住宅が縮退した以降の住宅政策を披歴しつつ、その時々を抽出していく。そして、その先で、今後は、地域社会のマネジメントとガバメントへの期待が語られる。ただ、高齢社会化し、非正規労働が増えた今の地域社会のままで、共助もしくは互助を求める事が出来るかどうか、地域社会そのものが課題を抱えていると言わざるを得ない、と感じるのだが・・・。

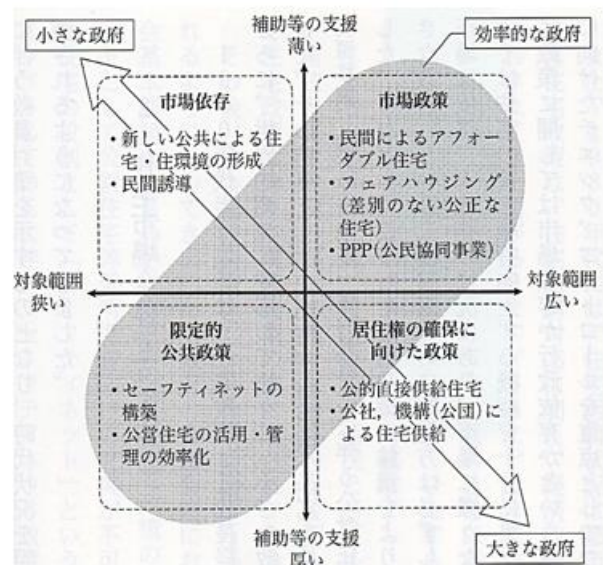


図5-1 住宅政策をめぐるマトリックス
(出所) 筆者作成

I } カサブランカから世界遺産ティトアンへ

今回ご紹介するのは世界遺産が9か所も存在するモロッコ。2015年3月～4月9泊11日間に及ぶモロッコ一周の旅。北大西洋岸の商業都市カサブランカからスペインのジブラルタル海峡に近いティトアンを経て、青いまちシャウエン、革のなめし場で有名なフェズ、サハラ砂漠での朝日、世界遺産で日干し煉瓦づくりの古いクサル(城)のイト・ベン・ハッドゥ、そして最後は世界遺産マラケシュのフナ広場などご紹介する。(右図参照)

モロッコの世界遺産の特徴は、現在でも人々が生活を続ける旧市街そのものが遺産になっているものが多い。なかでも1000年以上もの歴史をもつフェズやモロッコ最大のスーク(伝統的市場)をもつマラケシュなどはその代表格である。以下、順にご紹介する。

1. カサブランカ

カサブランカは人口400万人、アフリカ大陸最大の港を持ち北アフリカ第一の経済都市。1907年フランス領になって急速に近代化された。写真-①は1993年完成のモロッコ最大のモスク・ハッサン2世モスク。メッカの大モスクに次ぐイスラーム世界第2の規模。ミナレットの高さは200mで、世界一の高さ。内部はなんと25000人収容。大壁面は総て緻



密で気の遠くなるような美しい幾何学模様が施されている。

2. 世界遺産ラバト

ラバトは商業の中心都市カサブランカから北東へ約 90km に位置し、行政の中心で人口 65 万人。15 世紀にはレコンギスタ運動により、スペインのアンダルシア地方から多くの難民この地に逃げ込んだという。ラバトは商業と貿易の中心として発展し、フランスの保護国となり、1912 年にフェズに代わってモロッコの首都となった。また、新市街、旧市街とも世界遺産。

写真-②は、フランスから 1956 年に独立を勝ち取った元国王ムハンマド 5 世の霊廟。1973 年完成。精巧なイスラーム装飾が壁や床一面に施された豪華な彫刻が美しい。

写真-③は同内部の天井、透かし細工から光がこぼれる美しい金細工が施されている。



3. 世界遺産ティトアン

ティトアンのメディナ（旧市街）は 15 世紀末のグラナダ陥落に際し、イベリア半島から逃れたイスラーム教徒やユダヤ教徒によって造られたという。20 世紀前半にスペイン領になったこともあり、町の雰囲気は白い外壁などスペイン南部のアンダルシア地方を彷彿させる。スペインとモロッコ文化が入り混じったこの町では丘の斜面にへばりつくように白い家々が建ち並ぶ旧市街は、世界文化遺産。

写真-④は新市街の目抜き通りのムハンマド 5 世通り。まさにアンダルシア地方の街並みそのものである。建物の高さ制限やフォサードの白壁にアイアンの手すり、石畳も含め非常に調和がとれ実に美しい街並みである。フランス統治時代に新市街から旧市街を結ぶシンボルロードとして建設されたものと思われる。この通りの先が旧市街でスークが続き、狭い路地に衣料品からバブーシュ（モロッコサンダル）、肉やお菓子、チーズなどの食料品、魚や果物などおびただしい店舗や露店が続く。



写真-④

写真-⑤はスークにある衣料品の通り。路地は非常に狭く、運搬手段は写真のような二輪の手押し車。マラケシュやフェズはロバが使われており、いたるところにフンがちらかっていた。写真-⑥はパブーシュのお店。パブーシュとはモロッコの革製のサンダルで、上履きから下履き、女性用から男性用、無地から派手なデザインまで様々。いず



写真-⑤



写真-⑥

れもシューズのかかとを踏み潰したつくりの独特なもの。モロッコでは皆さんこれを使用しており、なんと道路工事の職人さんもこれを履いていて仕事をしていた。またイスラム教徒（ムスリム）は一日5回のお祈りがあり、その度にモスクで沓脱をしなければならない。パブーシュは礼拝にはすこぶる便利な履物ということで人気なのかも。

住宅改修事例：交通事故で重度の障害を負ったSさんのお宅

(株)ゆま空間設計 加瀬澤文芳

Sさん（男性・中高年）は交通事故により重度の身体障害を負い、ほぼ寝たきり状態になりました。呼吸は気管切開により、常にたんの吸引が必要です。食事は胃瘻で流動食を採っています。千葉療護センターでの何年かの入院により、暫くの間は車いすで行動でき、簡単な意思疎通もできるようになりました。現在退院し自宅で奥様と二人の生活を始めています。設計の観点は、ご本人にとっての使いやすさというより、ほぼ全介助の方を介護する家族の負担をどれだけ軽減できるかに集中しました。

住宅の状況と改修内容

田園の中の農家住宅です。敷地内に亡きご両親が住んでいた別棟がありますが今は空き家です。母屋は大きな家ですが、浴室がありません。親と共用するため別棟にしていたのです。母屋の地盤を1mほど嵩上げして階段や斜面で上がり降りしていました。それが車いすで行動する場合の大きな障害になっていました。

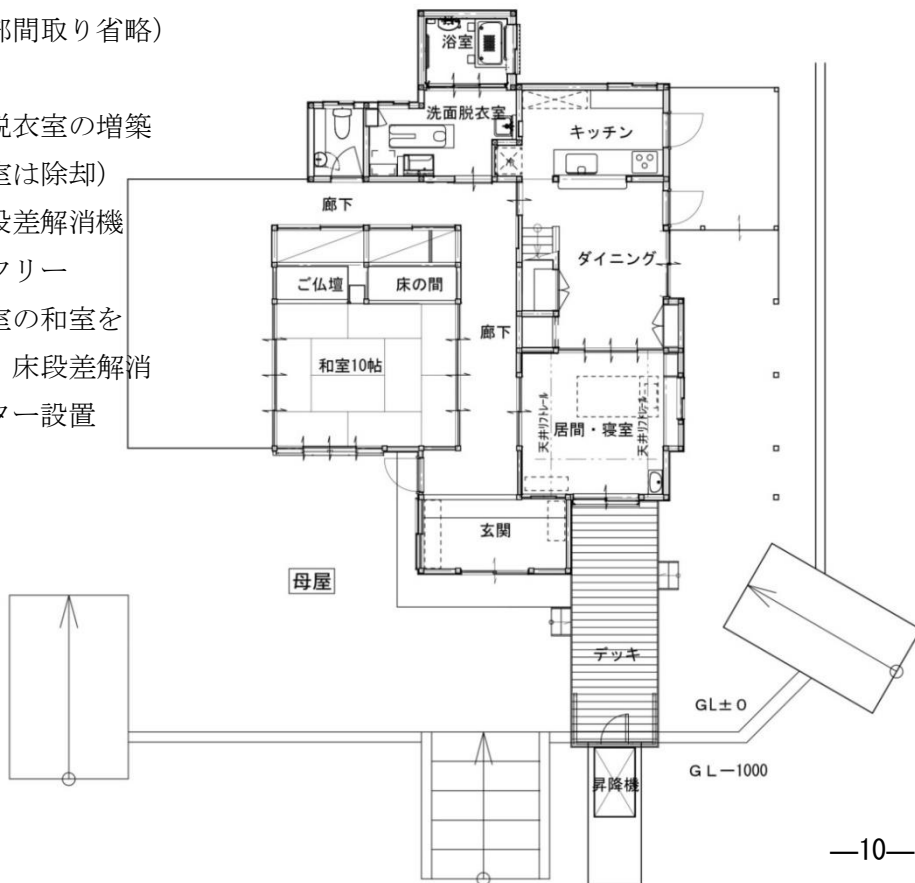
既存間取り（水回り改修部分）



改修後（一部間取り省略）

改修要点

- ・浴室洗面脱衣室の増築
(別棟浴室は除却)
- ・デッキと段差解消機
でバリアフリー
- ・居間・寝室の和室を
洋室にし、床段差解消
天井リフター設置



外部の石垣段差はほぼ1mありました。段差までデッキを張り昇降機に乗り移って床高さまで一気に上がります。1.4mの高低差です。デッキや仕切りの扉は腐朽しない南洋材で造りました。段差解消機と天井リフターは本件の紹介者でもある大邦機電の田名網さんが設置しました。この辺りは田名網さんのリードで工事が進められました。洗面台は普通の化粧台に横付けして使います。浴室は介護対応のユニットバスを設置しましたが、原則在宅入浴サービスを利用することとしました。

現在の生活の様子

夜も定期的なたんの吸引があつて介護の奥様は相当大変な様子ですが、現在機械吸引が導入され、かなり負担は楽になったとのこと。介護サービスを使いながら、何とか過ごしているそうです。



昇降機とデッキ



居間・寝室とリフター

↑昇降機は大邦機電製、デッキまで上がって扉を内側に開ける
 ↑リフターに乗るのはかしのき建設黒川さん、介助するのは大邦機電の田名網さん
 ←脱衣室広く洗面台に車いす横づけ、脇に手を出して使う



洗面脱衣室

○支部幹事会＋交流会

毎月第2木曜日定例で行います。どなたでも参加できます。直前に支部会員MLに ZOOM 会議招待の URL を送ります。クリックして参加してください。幹事は12月支部総会の準備打合せしますので必ずご参加ください。

○2022年7月15日（金）PM8：00～

第29回WEBちば塾（ZOOM）

「バリアフリー住宅改修」加瀬澤

○全国企画 夏季セミナー

茨城にてセミナーを開催します。茨城には支部がないので東京支部他近県（千葉支部含む）の有志による実行委員会で進められています。スケジュールは下記の通りです。

9月11日（日）

13:30～17:00 茨城県立青少年会館にて講座（講師乾康代代表幹事他）

18:30～ 夕食・交流会 ホテル・ザ・ウエストヒルズ

宿泊 ホテル・ザ・ウエストヒルズ

9月12日（月）

8:30～ 大型バスで巡る茨城 東海村・岩崎駿太郎邸「落日荘」他

16:00 つくば駅解散

申し込みは全国会員メールにて案内しています。

以上お問い合わせは事務局まで。

事務局だより

全国会員メールにて茨城で開催される夏季セミナーの案内をしています。集まってする全国企画としてはコロナ禍以降初めてです。場所近いですし是非皆さんの積極的な参加を期待します。実行委員会には中安さんと加瀬澤が参加しています。

(加瀬澤)

新建千葉支部事務局：株式会社 ゆま空間設計

TEL:043-253-8801 FAX:043-253-8806

千葉市若葉区みつわ台5-4-14

E-mail: office@yumaku-kan.co.jp

新建千葉支部ホームページ : <http://www5e.biglobe.ne.jp/~shinken/chiba/>

発行：千葉支部幹事会
編集：千葉支部幹事会
編集ワーク：中安博司

編集後記 :6/27 に記録のある1951年以降、最も早く関東地方ほかで梅雨が明けました。そして猛暑日。すごい汗かきですがエアコンの冷風が好きでないの何とかなんか扇風機で凌いでいます。(中安)